

広報

# もりの 中部の森林



緑の募金  
2024春

写真：鍋倉山のブナ  
(デジタル森林紀行 テーマ「青」〈青い風景〉より)

## 特集

- ・令和6年度中部森林管理局の取組

## シリーズ

- ・各地からの便り、森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、秘蔵写真・今は昔の林業

私の森語り組手でつなげる支援 東北+熊本+能登  
ながさか工房 長坂 洋



林野庁中部森林管理局

2024/No.242



**中部森林管理局の事業概要**  
 〈令和六年度の取組のポイント〉

**【企画調整課】**

四月二十四日、令和六年度の中部森林管理局の取組について記者発表を行いました。ここでは、令和六年度の主要な取組についてご紹介いたします。

**I 公益重視の管理経営の一層の推進**

◇多様な森林への誘導

・ 林齢や樹種の異なる林分が交互に配置された森林や、針葉樹と広葉樹が混ざり合った森林への誘導に取り組みます。

・ イヌワシの生息地周辺において、伐期に達した人工林の伐採・再造林によりウサギやネズミ等の餌となる動物の増加を促し、狩場を創出します。

・ 世界的にも希少で貴重な天然ヒノキ等の森林を守り育てる「木曾悠久の森」の設定から十年の節目を迎え、これまで進めてきた、時間をかけて人工林を元々の生態系に戻していく「復元」の取組等につ

いて、シンポジウムの開催等により、広く国民に情報を発信します。



設定から10年を迎える「木曾悠久の森」  
(木曾森林管理署管内)

◇安全・安心への貢献

・ 国土強靱化の取組として、激甚化する災害からの被害を防止・最小化するための流木対策、崩壊した林地の復旧を実施します。

・ 大規模な山地災害が発生した際に、県・市町村等とヘリコプターによる合同調査や、応援要請のあった県へ森林土木技術者の派遣を実施します。

・ 災害発生後すみやかに航空レーザ計測業務を行うことにより、災害状況を的確に把握し、県や市町

村へ情報を提供します。



「流木捕捉工」により捕捉した流木  
(富山森林管理署管内)

**II 森林・林業施策全体の推進への貢献**

◇「新しい林業」の実現に向けた

効率的な施策の推進

・ 持続的な林業経営を構築するため、伐採から再造林、保育に至る全体の収支のプラス転換を可能とする「新しい林業」の実現に向け、国有林のフィールドを活用して低コスト化・省力化の実証等を実施します。

・ 具体的には、これまで人力主体で行っていた造林・伐採作業につ

いて、効率的な機械の活用による作業の効率化や、大苗の導入による下刈回数削減などに取り組めます。

・ これらの取組の成果については現地検討会等を通じて林業事業者や行政関係者へ紹介します。

◇木材の安定供給と需要拡大

・ 国有林野が有する豊富で多様な森林資源を活かし、国産材の安定供給を下支えするとともに、伝統的建築物の修復用資材や大型公共建築物など特殊用途へのニーズにも対応していきます。

・ 高齢級・高品質な特定の樹種について中部森林管理局が独自にブランド化した「**高木曾**（東濃）ひのき」、「**段戸SAN**」（ヒノキ）、「**信州プレミアムカラマツ**」を積極的にPRし、需要の拡大を図ります。

・ 木質バイオマス発電の需要に因應するため、伐採跡地で発生する枝条や端材（いわゆるD材）の販売情報をHPで公表するなど、資源の有効活用についても積極的に取り組めます。





ヒノキのブランド材「段戸SAN」  
(愛知森林管理事務所管内)

◇花粉発生源対策

・ 政府が策定した花粉発生源対策において、令和十五年度までの十年間でスギ人工林を約二割削減するとされたことを踏まえ、着実な伐採の実行と伐採指定箇所を追加を進めます。

・ 都道府県が設定した「スギ人工林伐採重点区域」が含まれる市町村に所在する国有林の一部を「重点区域に準じた国有林」とし、当該区域を主体に伐採を推進します。

・ 伐採後の植替えにあたっては、

花粉の少ないスギ苗木を使用します。



一般的なスギ

花粉の少ないスギ

(写真：国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター)

◇シカ被害対策

・ 事業者への委託による捕獲のほか、猟友会へのわなの貸出しなど地域ぐるみでの取組を実施します。

・ 林野庁職員が開発した、シカの習性を利用し初心者でも高い捕獲効率を期待できる「小林式誘引捕獲法」を積極的に普及します。また、わな見回りの負担を軽減する

「捕獲通知システム」の導入等にも取り組みます。

・ シカ被害が懸念される新植地や、希少な高山植物等の保護が必要な箇所へ、状況に応じて防護柵を設置します。



小林式誘引捕獲法 (餌を食べる時に前足を出すシカの習性を利用)

◇民有林との連携

・ 市町村の森林・林業行政に対する技術支援として、中部森林管理局が実施する研修・現地検討会への市町村職員の参加や、森林管理署の事業現場の見学会等に取り組んでおり、引き続き、地域の実際や市町村の要望を踏まえながら推進します。

・ 林業事業者が複数年にわたり樹木を採取できる「樹木採取権」の設定により、森林管理の担い手育成に貢献します。令和六年度は、岐阜県飛騨地域での区域指定を進めます。

Ⅲ 「国民の森林」への管理  
経営

・ 自ら森林づくりを体験したい、などのニーズに応えるため、NPOや企業等が継続的に国有林野を利用できる「協定締結による国民参加の森林づくり」を推進しています。

・ レクリエーションの森の中でも特に魅力的な観光資源として選定されている「日本美しの森お薦め国有林」の情報発信や環境整備等を実施します。

・ 「国有林おさんぽMAP」の公表など情報発信を引き続き実施し、国有林を活用した地域の観光振興に寄与します。

※令和六年度 中部森林管理局の取組の詳細は、当局ホームページまたは、コードを読み込んでください。



金華山で林野火災防御訓練

【岐阜森林管理署】

二月二十八日、岐阜市にある金華山国有林において、林野火災防御訓練が行われました。

この取組は、「春の火災予防運動」前に毎年実施されており、岐阜市消防本部が主体となつて、市内各消防署、岐阜県防災航空隊、当署、岐阜市役所、ロープウェイ事業者などから、約二〇〇人が参加しました。

訓練では、金華山中腹から出火したとの想定で、消防本部によるドローンを活用した情報収集と航空隊への出動要請に始まり、ヘリコプターによる空中消火が行われました。

地上では、各消防署が、山麓の岐阜公園及び岐阜森林事務所からの二つの登山道を利用し、山頂までの標高差約三〇〇m、延長約一kmの間に消火ホースを引き延ばして放水したほか、当署では、ジェットシューターによる残火処理放水を行いました。



このほか、市役所やロープウェイ事業者は、観光客や登山者の避難誘導を行うなど、関係機関が連携して訓練にあたりました。

訓練後、岐阜市消防本部次長から、「平成十六年から火災が起きていないのは、関係機関が防火対策に取り組んだ成果。有事には訓練を活かし消火活動を行うことになつて、引き続き防火啓もう活動の協力をお願いしたい」との講評がありました。

金華山登山道は、岐阜市の条例で路上喫煙禁止区域に指定されていますが、パトロールを行うとタバコの吸い殻が確認されています。当署では、林野巡視等を通じて関係機関と協力しながら、引き続き山火事防止活動に努めます。



標高差300m、延長約1kmの登山道にホースを延ばしての放水

広葉樹二次林の施業上の取扱いに関する検討会の開催

【計画課】

二月二十九日、第四回目となる「広葉樹二次林の施業上の取扱いに関する検討会」をオンラインにて開催しました。

本検討会は、管内の広葉樹二次林について、森林の有する公益的機能の維持増進のための施業の必要性について検討した上で、施業を必要とする箇所を考え方や留意すべき事項、伐採木の利用可能性等について検討すべく設置したものです。

今回の検討会は、昨年八月及び十月に開催した現地検討（北信・飛騨森林管理署管内）の結果等を踏まえて作成した、本検討会のとおりまとめ案について議論しました。

委員からは、「資源の有効活用も含めた広葉樹二次林の施業を検討するにあたっては、新たな施業方法の検討や伐期齢の見直しが必要ではないか」、「ナラ枯れについては、広葉樹林において重要な問



題となり得ることから、対応策等について検討しておくべき」、「広葉樹資源の有効利用につながる取組が進められていくことを期待する」などの意見や助言をいただき、三月末には、これまでの議論を踏まえたとりまとめを公表しました（左コード参照）。

今後、択伐等の伐採及び天然更新を試験的に行うなど、モニタリングを通じた実践の取組を進めてまいります。



とりまとめ



Web会議システムによる検討会の様子



**新居の住み心地はどうか？  
中学生による巣箱掛けを実施**

【北信森林管理署】

四月十一日、長野市戸隠山国有林内の戸隠森林植物園において、戸隠中学校二年生十三名による小鳥の巣箱掛けが行われました。

同植物園は、日本美しの森お薦め国有林となつている「戸隠・大峰自然休養林」の中にあり、四季を通じて様々な花や多くの野鳥を観察することができると、魅力的なレクリエーションの森として親しまれています。

周辺にはパワースポットで有名な戸隠神社奥社や戸隠山、鏡池などがあり、その雄大な自然を満喫しようと国内外から多くの方々が訪れています。

戸隠中学校による小鳥の巣箱掛けは、昭和四十二年から続く伝統的な行事であり、自然豊かな戸隠の中で鳥の生態について学び、様々な生き物とふれあい、自然への理解や関心を深めるとともに、植物園内の野鳥の営巣の手助けを目的として実施されています。



残雪の中、協力して巣箱の交換を行う生徒たち

今年には園内各所で早くもミズバショウが芽吹き始め、春の気配を感じられる陽気の中、残雪により歩きづらい園内を、生徒たちは協力して老朽化した巣箱を採出し、はしごをかけ、思い思いに製作した十三個の新しい巣箱に交換しました。

生徒たちは、「巣箱をうまく設置できて楽しかったね」、「小鳥たちが巣箱をいつまでも使ってくれたら嬉しいな」などと話を弾ませながら、笑顔で植物園をあとにしました。

**第五十四回上高地開山祭**

【中信森林管理署】

四月二十七日、北アルプス南部の山岳観光シーズンの幕開けを告げる「第五十四回上高地開山祭」が松本市上高地の河童橋のたもとで開催されました。

雪解けが進む穂高連峰を背景に地元関係者や観光客が見守る中、アルプホルンの演奏で開山祭が幕を開けました。厳かな神事の後は鏡開きや地元の稲核地区の獅子舞が奉納され、シーズン中の安全を祈願しました。

式典では森谷局長から、景観に配慮した災害対策や高山植物の保護活動など、上高地で行ってきた中部森林管理局の取組を紹介し、引き続き関係者の皆様と一緒に取り組んでいくとの挨拶がありました。

上高地は、国の特別名勝、特別天然記念物に指定されていますが、大半が国有林であり、本州ではここにしかない希少なケシヨウヤナギの保護林や自然観察教育に



多数の観光客が見守る中で行われた開山祭

適したレクリエーションの森が設定されています。

昨年、上高地を訪れた観光客や登山者は百三十二万人にのぼり、過去十年間で最多となったと発表されています。

標高一、五〇〇以上の高地にありながら、梓川沿いにはほぼ平坦な地形が約一〇キロにわたり続いているため、散策路はとても歩きやすく、日帰りの短時間滞在でも変化に富んだ景色が楽しめる歴史ある避暑地でもあります。

是非、上高地に訪れ、心身ともにリフレッシュしてみたいかがでしょうか。



シリーズ

# 森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【木曽森林管理署

藪原森林事務所

首席森林官 松田 博文

藪原森林事務所は、木曽川最上流部の長野県木曽郡木祖村に位置しています。



味噌川ダムから見た国有林

管轄している国有林面積は約七、八三〇㊦あり、このうち約六割は、カラマツを主体とする人工林となっています。

日頃の主な業務は、植林地における保育・伐採などが適切に実行されているかの確認や、事業者の監督などになります。

このほか、木祖村等との会議や地区行事など地元と接する機会が数多くあり、地域の国有林の顔となるよう努めています。



間伐実施後のカラマツ林



やぶはら高原はくさいマラソン大会  
味噌川ダム堤体を疾走

管内には、樹齢約二〇〇年のヒノキ・サワラをはじめとする針葉樹とブナ・ミズナラなど広葉樹の巨木が入り混じった「水木沢天然林」があり、手軽に散策できるコースが整備されています。四月下旬に開園となり、ちょうど今は新緑を楽しむことができます。

また、毎年一、〇〇〇人以上が国有林内を力走する「やぶはら高原はくさいマラソン大会」は、今年も六月三十日に開催予定です。

■未来の担い手へのメッセージ  
木祖村は、木曽川の源流の里と

して、地域住民の水源地だけでなく、味噌川ダムよって中京圏の水がめへの役割を果たしています。当事務所は、その最も上流域にある国有林から将来にわたって豊富できれいな水を供給できるよう、森林を保全・管理する役目を担っています。

また、森林官の仕事には、赴任した先々で、地域ごとに違う森林や風景に接しながら、デスクワークでは味わえない良さがあります。一緒に山を歩いてみませんか。



水木沢天然林遊歩道を点検中の筆者





シリーズ

# 「私の森語り」

もりやた

森林・林業との関わりの中で、  
様々な課題に挑戦されている方  
の取組を紹介いたします。



「組手をつなげる支援

東北十熊本十能登



工房し  
ながさか 洋  
ながさか 長坂

## ■自己紹介

製材業の三代目、先代の死去に伴い製材業を廃業。木工業に従事し、壁材の下地として使われる胴縁材を使った製品開発に参加。

同縁材から断面四〇×一五ミリの細い平板を取り、組手を加工して棒状の組立部材とした「組手仕」を始めて十三年。加工機を製作し、自社生産を始めて十年となり、「組手仕おかげまわし東海」の代表を務めています。

## ■活動内容

組手仕は、いろいろな場所です



災害備蓄用の組手仕（土岐市）

くさん作って広めていただきたいと考え、著作権を放棄しています。令和六年一月、能登半島地震発生後にいち早く（公社）国土緑化推進機構が「緑の募金」復旧支援使途限定募金（地震災害）として、組手仕による避難所等の支援を決め、（公社）石川県木材産業振興協会の古谷理事が現地コーディネーターを担い、宮城県の登米町森林組合の竹中参事からは、東日本大震災の経験を生かした指導・助言をいただきました。

初動は一月十七日でした。岐阜県土岐市からの災害備蓄材の二千本と宮城県の二拠点からの二千本に加え、続けて愛知、滋賀、栃木から組手仕が届きました。また、すぐに金沢市で生産が始まり、四月中旬までに二万本以上の組手仕が届いています。

支援活動には、熊本震災支援のノウハウが活かされています。始めに公共スペース用への下駄箱・整理棚などを被災者と一緒に組み立てて、組手仕の便利さと楽しさを知っていただき、その後個別スペースの小さな整理棚を提供するという流れができました。

奥能登は少子高齢化が進む小さな集落が多く、小規模な公民館などに避難所が開設されています。そのため、公民館の通路に配置できるサイズの下駄箱、収納棚などが重宝されました。テレビ小説のセリフのごとく「何にでもなる魔法の材料」として活躍しています。避難者からは、「辛いことも多いけど、一緒に対話しながらものづくりをして、それが形になるので前向きになれる！」「子どもも

女性も、自分たちで欲しいものを自分たちで考えて作れる。」「ボランティアの方々とも一緒に話しながら作品を作れるので、関係性づくりにも良い！」などの声が聞かれました。



七尾市内



輪島市内

## ■メッセージ

ネット検索では、あちこちでの組手仕のイベントがヒットします。今後は、能登での事例を携えて、各地へ災害備蓄と協働支援を呼びかけていきます。

## ■連絡先

愛知県名古屋市中区矢田東一ー七  
ながさか株式会社内  
<https://nagasaka.nagoya/>





シリーズ

秘蔵写真

# 今は昔の林業

第37回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

## 「裏木曾」その一 裏木曾とは

東濃森林管理署管内、現在の中津川市の北東部の森林地域はかつて、「本木曾」「表木曾」と呼ばれた信州側の木曾地域に対して阿寺山地を挟んで「裏木曾」と呼ばれました。江戸時代のこの地域（濃州恵那郡加子母村、付知村、川上村）は木曾地域と同様に尾張藩領であり、時代によって、「裏木曾三ヶ村」「濃州三ヶ村」などとも呼ばれました。



裏木曾の古写真（昭和10年代頃）



昭和20年代に撮られた現在の付知裏木曾国有林（東濃森林管理署管内）

信州側の木曾地域と同様にヒノキ・サワラといった有用な針葉樹資源に恵まれたこの地域の森林の多くは、明治時代の半ば以降は皇室林野局の御料林となります。特に優れた天然ヒノキ材を産出してきたため、近現代の「木

曾ヒノキ」の名声の一定部分はこの地域が担ってきたという見方もできます。

## 付知川に於ける材木伐出の沿革と繪解

昭和二十八年、付知営林署（現・東濃森林管理署）より「付知川に於ける材木伐出の沿革と繪解」という資料が刊行されます。本というよりは、上・下巻、折り畳み式の絵巻物といった感のある独特の構成となっています。

この資料は裏木曾における機械化以前の伐木運材を描いたもので、特に付知川での流材（川に浮かべた木材をバラバラに流すこと）の最盛期である明治末期から大正初期が舞台となっています。



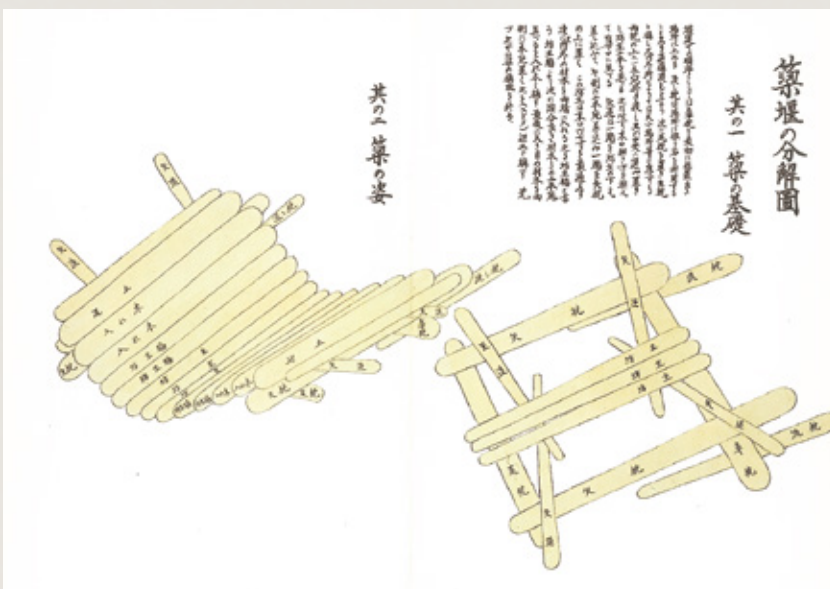
「付知川に於ける材木伐出の沿革と繪解」上・下巻



この資料は当時の付知管林署長からの依頼により、編集・監修を「三千年物語・付知のあ



「付知川に於ける材木伐出の沿革と繪解」より「築堰」(丸太を水に浮かべて運ぶしかけの一つ)



「付知川に於ける材木伐出の沿革と繪解」より「築堰の分解図」

ゆみ」の著作がある三尾箕山(金三三氏、画・筆者が牧野彪六郎氏(当時付知管林署職員)、資料の収集に元「総抽頭」であった熊崎元義氏の協力を得て製作されたとされます。  
木曾・飛騨地域の古い林業風景を描いた絵図として「木曾式伐木運材図会」(中部森林管理局所蔵)が知られていますが、これの裏木曾版を作ろうという意気込みもあつたようです。  
江戸時代後期の伐木運材風景を描いた「木曾式伐木運材図会」とは共通する部分もある一

方、明治・大正時代の服装・風習が見られ、また運材に用いる設備の分解図などは大変詳細に描かれているのが特徴です。



「付知川に於ける材木伐出の沿革と繪解」より「技手」(帝室林野局職員の制服姿)

資料の発行数が限られ、折り畳みの絵巻物風という独特の構成、専門的な説明が取っつきにくいからでしょうか、これまであまり注目される機会の少なかった資料でもあります。描かれている舞台である明治末期から既に百年以上、製作されてからも既に七十年が過ぎ、今後ますます、往時の林業風景を伝えてくれる貴重な資料となってくると考えられます。

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。  
当サイトへは、コードを読み込んでください。





# クロベが主体の貴重な天然林

## 笠山クロベ希少個体群保護林

### 設定目的

笠山(一、五五三トメ)にはクロベ(ネズコ)を主体とし、ウラジロモミヤカンバ類等が混交する天然林が見られます。

クロベを主体とする天然林は学術的に貴重であることから、保護林としてこの個体群の保護・管理をしています。

### 地況・林況

当保護林は、飯縄山(一、九一七トメ)の南西にある笠山の西斜面に位置しています。周辺は飯縄山の火山活動で放出された火砕岩が堆積し、あまり土壌が発達していませんが、その急斜面にクロベが群生している点が大きな特徴です。

将来は土壌が安定するにしたいが、コメツガが優占する群落へ遷移していくと考えられています。

所在地  
長野県 長野市 戸隠豊岡



国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



※詳細は、コードを読み込んでください。



**青山林野庁長官が  
木曾・東濃地域を視察**

五月一日から二日にかけて、青山林野庁長官が、木曾及び東濃地域を訪れ、現地視察や関係者との意見交換を行いました。

初日は、木曾署管内の赤沢自然休養林内の施設や木曾ヒノキ林を見学し、その後、令和三年度木材利用優良施設コンクール「林野庁長官賞」を受賞した木曾町役場庁舎を訪問しました。「出梁造」という木曾地域の伝統工法を用いた長大な木造平屋建ての庁舎は、地元産のヒノキやカラマツなどの無垢材を現地で配した明るく開放的な施設でした。

また、木曾郡6町村長と、地域の林業の活性化に向け、現状と課題、将来に向けた展望等について意見交換を行いました。



木曾町役場庁舎内



中津川市立福岡小学校校舎内

翌日、東濃署管内では、将来、歴史的木造建築物の修復等への利用を想定している「裏木曾古事の本森」において、高齢級のヒノキ人工林の整備状況を視察しました。続いて、令和五年年度と同コンクールで「文部科学大臣賞」を受賞した中津川市立福岡小学校を内覧しました。地域経済の循環を意識して、木材の調達から製材まで地元業者により建てられた校舎は、肌触りの良い柱が森の木々を想起するように配されており、広い空間に子供たちの明るい声が響く、木の温もりに満ちた施設でした。

**山火事に用心**

令和六年に入り、大規模な山火災が発生しています。一月に広島県江田島市で二四三畝、四月に岩手県宮古市で一八〇畝、五月上旬には山形県南陽市で一三七畝の山林が焼失しました。長野県内でも五月の連休中に、松本市で山林火災が発生しています。

全国では平均すると一年間に約一、三〇〇件の山火災が発生し、その約七割が冬から春（一月から五月）に集中しています。春先の山火事は山菜採りや行楽で山へ入る人が増加することや、農作業での枯草焼きによる飛び火などが原因となっています。ひとたび山火事が発生すると消火するのは非常に困難で、広範囲の森林が失われるだけでなく、回復するまでには長い年月と費用が必要となります。

山火事のほとんどは人間の不注意から発生しています。一人一人が火の取扱いに注意することで山火事を未然に防止していきましょう。

**編集長だより**

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、[migoro@maff.go.jp](mailto:migoro@maff.go.jp)まで電子メールでお送りください。)

♪屋根より高い鯉のぼり〜とご対面する機会は少なくなり、最近ではもっぱら、河川の両岸に張られたワイヤーに大集結する形でお見かけします。子どもの成長とともに、押入れや物置の奥へと追いやられていたであろう多くの鯉たちが、再び風を受け、所狭しと大空を泳ぐ様子は、すでに5月の風景として定着しているのでしょうか。

その5月、さわやかで気持ちのよい季節のはずですが、今年は春先から気温の変化が大きく、冷え込みが戻ったり真夏日になったりと、この時期本来の天候や気温がわからなくなっています。そうした中、4月から新しい場所での生活がスタートした方にとっては、少しずつ緊張の糸がほぐれてくる時期でしょうか。いやいや、まだ張りつめている、という方もいらっしゃるかもしれません。風薫る5月、気分転換も兼ねて青空に泳ぐ鯉を探しに出かけてみませんか。メザシでないことを祈りながら。

山火事防止の  
シンボルマーク  
まといリス



林野庁では昭和49年（1974年）に山火事防止アニメ映画「リスのまとい」を製作しました。主人公のリスは山火事防止のシンボルマークに制定されています。



中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下を読み込んでください。



中部森林管理局  
ホームページ

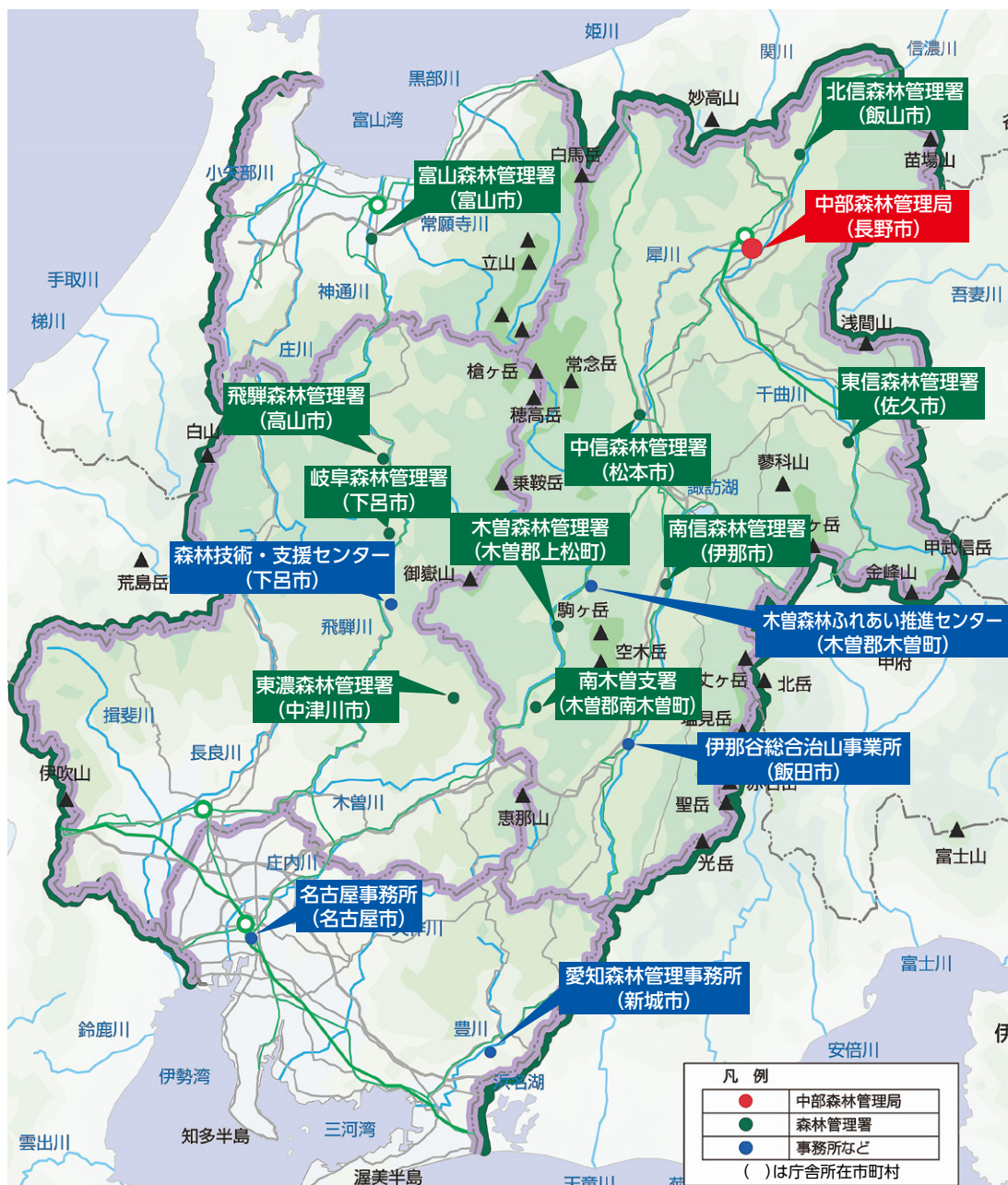


広報  
「中部の森林」



用語の解説

本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。



名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	c_nagoya@maff.go.jp
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	c_toyama@maff.go.jp
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	c_hokushin@maff.go.jp
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	c_chushin@maff.go.jp
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	c_tohshin@maff.go.jp
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	c_nanshin@maff.go.jp
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	c_kiso@maff.go.jp
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	c_nagiso@maff.go.jp
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	c_hida@maff.go.jp
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	c_gifu@maff.go.jp
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	c_tohno@maff.go.jp
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	c_aichi@maff.go.jp
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	c_gijutsus@maff.go.jp
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島5473-8	TEL 0264-22-2122	kiso-fureai@maff.go.jp
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	

発行：林野庁 中部森林管理局  
編集：総務課 広報  
〒380-8575 長野県長野市栗田 715-5  
電話：026-236-2531  
Mail：migoro@maff.go.jp  
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。  
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)  
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。